

令和元年度第1回栄地区協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日 時 令和元年5月29日（水） 午前10時から11時50分まで
場 所 三条市役所栄庁舎 3階 教育センター中会議室

●出席委員（◎会長、○副会長）

佐藤 洋一	内山 敏雄	長野 功	○小谷松善保
◎殖栗 孝雄	堀内 靖記	宮島 敏明	長谷川勝榮
島影 正幸	中村 貴子	鈴木 正道	武田 哲夫

（12人）

（欠席委員）

小川 好美 田邊 正和 （2人）

●出席者

副市長 若山 裕、総務部長 駒形 一興、政策推進課長 平岡 義規、
栄サービスセンター長 小出 和哉
（政策推進課）主査 永井 純子
（栄サービスセンター）総務グループ長兼総合窓口グループ長 阿部 修造

●傍聴者

なし

●報道機関

三條新聞社

●内 容

- 1 開 会(10:00 開会)
- 2 委嘱状交付
- 3 出席者紹介
- 4 議事

- (1) 会長及び副会長の選出について

会長に殖栗孝雄委員、副会長に小谷松善保委員を選出

- (2) 行政評価に基づく平成30年度事後評価について

（政策推進課長 説明）

資料No.1-1～No.1-5、参考資料No.1～No.3により行政評価に基づく平成30年度事後評価について説明

～質 疑～

（鈴木委員）

デマンド交通及び市内循環バスの年間利用者数の記載があるが、栄地域のみ

数値はあるのか。循環バスはいつも空である。また、デマンド交通の利用は増えているのか。

(政策推進課長)

具体的数値は持ち合わせていないが、循環バスは、指摘のとおりなかなか活用が進まない傾向がある。また、デマンド交通についても導入からは利用は増高してきたが、近年の利用は縮小傾向にある。公共交通は高齢者の移動に有効な手段であるがその使い方を知らない方が多い中、周知を図り改めて浸透させていきたい。さらに、公共交通全体としてどうあるべきか、何が課題なのかをしっかりと検証していく必要があると考えている。

(宮島委員)

目標値の考え方が知りたい。途中で目標値を設定し直すということはあるのか。

(政策推進課長)

前期実施計画4年間で到達すべき指標として目標値を設定している。4年間は目標値を修正していない。例えば、最終的に80%を達成しなければならない場合、初年度は20%、次の年は40%というように段階を追って設定している。

また、後期実施計画においては、目標値を見直しているものもある。

(長谷川委員)

総合計画は8年間で目標を達成するものである。今の進捗状況が分かったといい。

また、8年間で環境が大きく変化してきている。総合計画は、多極分散型を軸として4年前に策定された。しかし、多極分散型の考え方を今後も続けていていいのか。費用対効果の点から軌道修正していくことも考え併せなくてよいか。

(政策推進課長)

全体の進捗という点については、今日お示しした平成30年度事後評価総括表においては、A評価が6項目、B評価が12項目となっている中、全体の7割強が順調に進んでおり、総じて着実に推進されていると捉えている。

また、多極分散型の考え方については、今の社会の主流的な考えとしては、コンパクトシティの考え方もある。当市においては、現にお住まいの皆さんが住み慣れた場所で暮らし続けていける環境づくりをするべきと考えたところである。御意見の趣旨は、次回の総合計画策定時などに改めて議論の一つとなるものと考えている。

(長野委員)

デマンド交通は、市民に認知されていない。民生委員や自治会長などから老人会の集まり等に出向いてもらい、運転免許返納を絡め、デマンド交通や循環バスの周知をしてもらってはどうか。

(政策推進課長)

デマンド交通等の利用方法の浸透については、集いの場などを活用しながらの利便性PRも考えていく必要がある。集いの場とは任意で集まる高齢者のサークルのような場である。そうした場を活用していくとともに、提案いただいたように民生委員さんや自治会長さんにも御協力をいただいて進めていく必要もあると

考えているので、所管課へ申し伝える。

(佐藤委員)

栄地域の大和地区、鬼木地区には公共交通機関がない。下田地域の高校生ライナーや井栗地区の地域コミュニティバスのように栄地域でもコミュニティバスを検討できないか、昨年度、市担当課の説明を受けた。バス購入の補助もあるが運転手の確保が必要とのことである。どうしても自治会に負担が掛かる。基本の経費は利用者だけでは賄いきれない。引き続き、市にお願いしていきたい。

また、今程の事後評価を聞いていると、県央、三条のまちなか、下田地域しか出てこない。栄地域をこれからどうしていくのか。

(政策推進課長)

1 点目について、各地域において公共交通の課題は様々である。公共交通全体としての課題の把握とその改善策の検討を進めていきたい。

2 点目について、総合計画の中では、少子高齢化や人口減少が急速に進みコミュニティの存続も危ぶまれるまちなかと下田地域をパイロット事業と位置付け、特に注力していく必要がある地域としている。結果として、まちなかや下田地域の記述が多くなってしまった経緯もある。しかし他方で、工業流通団地や帯織外苑住宅団地などに注力し、栄地域も一つの極として地域の優位性が活かせるようなまちづくりを進めているものであるので御理解いただきたい。

(総務部長)

それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりというものがある。そのために地区協議会がある。今日いただいた意見を真摯に受け止め、戻ったら所管課に申し伝える。

(武田委員)

当初予算概要の 53 ページの公園・緑化の推進の項目であるが、昨年度この項目の中に、しらさぎ森林公園の滑り台がいくらか具体的な金額が列記されていたが、しかし、現状は滑り台の整備はされていない。昨年度実施できなかったものは再度掲載し実施すべきではないか。

(政策推進課長)

個別具体の事情については全て把握しているわけではないが、当初予算概要には今年度の新規事業などを抜粋して載せている。しらさぎ森林公園の件について確認はしていないが、事業が取りやめになったということではない。

(武田委員)

先程、三条と下田にウエイトが置かれているという話があったが、当初予算概要を見るとお金が三条と下田にシフトされているように見える。

(政策推進課長)

決してまちなかと下田地域に集中投資している訳ではない。先ほどもお答えしたとおりである。御理解いただきたい。

(武田委員)

帯織住宅団地遊具等整備は、なぜ今年度予算が付いているのか。分譲開始は来

年ではないか。

(政策推進課長)

帯織街苑については、7月に公募し8月には分譲開始となる。遊具についてはこの開発に伴うものであり、団地内に一定の公園を築造する必要があるための予算計上である。

(中村委員)

高齢者世帯や障がい者世帯は、様々な制度があっても、情報が入ってこないため活用できない。民生委員や包括支援センターが積極的に関わっていかないと周知されないと思う。

(政策推進課長)

民生委員さんを始め、指摘のような情報は、様々な方に御協力を仰ぎながら広く周知していきたいと考えている。所管課へも申し伝える。

(長谷川委員)

民生委員としても、デマンド交通などの情報の周知に今後も取り組んでいく。

(長谷川委員)

2025 問題が目前にきている。市では健康寿命の延伸のため福祉事業の充実を進めており、社会参加の促進や地域の集まりの場の創出、有償ボランティア制度の創設など、素晴らしい取組をしている。そのような中で、セカンドライフ応援ステーションや社会福祉協議会、行政など、それぞれで窓口があるが、その整理が必要なのではないか。整理することにより情報が伝わりやすくなるのではないか。

また、心配する必要はないのかもしれないが、新潟県の財政状況が全国で最下位というニュースがあった。三条市の財政状況を折に触れ発信する機会を作ってほしい。

(政策推進課長)

高齢化に対しては、様々なプレーヤーから御協力をいただき、連携して取り組んでいく必要がある。その連携の在り方については今後議論していく必要があると考えている。

財政状況については、例えば、議会やふれあいトークなどの場で説明している。積極的な発信について財政課に申し伝え、検討していく。

財政状況としては、様々な事業を手掛けている中で財政調整基金は今後数年間若干の減少傾向を辿るが回復する見込みでいる。想定内の動きである。

(内山委員)

産業として成り立つ農業とあるが、今後、担い手がいなくなる。所得を得られるようなやり方に変えていかなければならない。現場の声をしっかりと聴き取り進めていくべきと考える。

(政策推進課長)

新規就農者等に対しては、市、県、国の様々な支援が用意されている。農業者の声をしっかりと聞きつつ、取組を進めていかなければならないことは認識している。指摘いただいたことを農林課へ申し伝える。

(鈴木委員)

行政評価は見える行政づくりとして効果的である。栄地域だけの 26 項目の評価ができないか。次回出していただけたらありがたい。

(政策推進課長)

おそらく困難であると思う。地区を分けて検証できる指標もあるが、行政評価は、三条市の施策が市全体としてどの位置にあるのかを表すものである。今後の検討課題とさせていただきたい。

(3) その他

なし

4 閉会 (11:50 閉会)